

## 透析回診への薬剤師の関わり —シナカルセトの治療効果から—

(<sup>1</sup>総合病院水島協同病院 薬剤部、<sup>2</sup>総合病院水島協同病院 診療部、<sup>3</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科) 李 美淑<sup>1</sup>、大地和樹<sup>1</sup>、林 美智子<sup>1</sup>、大西順子<sup>1,3</sup>、山崎 完<sup>2</sup>、杉山 信義<sup>2</sup>

【目的】外来透析患者の継続的薬物治療は予後の改善、合併症の予防・治療に極めて重要である。しかし、多剤投与、服用法・服用時間等の複雑化、副作用によるコンプライアンスの低下等の問題も多く、多職種が連携し積極的に関与する必要がある。当院では、2008年4月より患者のアドヒアランス向上と薬剤の適正使用、副作用の早期発見を目的に、医師と看護師の回診に同行し外来服薬指導を開始した。そこで、シナカルセトの治療効果を通して薬剤師の積極的関与の意義を検討した。【方法】回診前に、検査データ、服用薬剤、カルテで1ヶ月間の患者の動向をチェックした。回診時には、患者へのコンプライアンス確認、データに基づいた薬剤の変更や、至適用量を医師に提案した。患者へ薬物投与の必要性、服薬上の注意、食生活の指導やサプリメントに関するアドバイスを行った。また、回診業務開始後のシナカルセト投与患者15名に対し、投与前3ヶ月間の血清Ca値・P値、intactPTH値、Ca×P値、ALP値の効果を3・6・9ヶ月後で検討し、シナカルセト服薬患者へのアンケート調査を行った。【結果】血清Ca値、血清P値、Ca×P値、intactPTH値の全てにおいて、投与3・6・9ヶ月後を通し投与前値より低下した。二次性副甲状腺機能亢進症治療ガイドラインで示されている、至適Ca、P値の達成率においても、投与前0%に対して3ヶ月後60%、6ヶ月後75%、9ヶ月後75%と上昇した。また、患者へのアンケート調査より服薬の実態が明らかとなった。【考察】薬剤師が毎月回診に同行し薬物治療へ介入することにより、これまで医師の断片的な検査値での評価から、経時的な評価へと変化し、薬剤師による的確な薬剤の増量、減量のアドバイスが出来るようになった。外来透析患者への薬剤師の積極的介入がシナカルセトの効果の結果へと繋がったと考える。しかし、回診時の服薬指導だけでは不十分であり、患者に応じた細やかな服薬指導の必要性も感じられた。今後は、多職種カンファレンスへの参加や、患者へのコミュニケーションを円滑にし、さらなる患者アドヒアランス向上へと貢献したい。